

学校の共通目標

授業づくり	重点	生徒一人一人が、分かりやすいと感じ取れる、工夫された授業づくり。	中間評価	生徒意識調査では「先生の授業は分かりやすいと思う」に88%の生徒が「あてはまる」と答えた。	最終評価	
		本校における確かな学力「想像する力・挑戦する力・伝える力・発見する力・振り返る力」を身に付けさせる。		教師一人一人が課題を意識しながら、授業改善につとめている。		

教科の取組み内容

教科	学習状況（4月）	課題（4月）	改善に向けた取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>調東京都学力調査の結果を見ると、話す、聞くの分野で、正答率71.1パーセントと東京都の69.9パーセントを大きく上回っている。これは、全校でプレゼンテーション等に積極的に取り組んだ結果であると思われる。</p> <p>調知識理解では、都が77.0パーセントのところ、牛込には75パーセントであった。</p> <p>学また、四月当初に行った漢字テストでは正答率は40パーセント前後であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の基礎知識（特に書く力）が不足している。 基礎的な読解力と、文章で説明する力の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に一回全学年で、漢字テストを20問づつ行う。 すべての単元で振り返りを行い、文章でそれを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に行われた東京都学力調査では読み解く力に関して、東京都の平均を大きく上回った。これは日々の授業で話し合い等を多く取り入れ、自ら考えることができているからだと考える。よって、この点は継続していく。 知識・理解が東京都の平均を下回っているため、今後とも、小テスト等を継続して実施し、知識の定着を図る。 	
社会	<p>調各学年ともに、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」目標値を上回り、おおむね満足できる状況であるが、「資料活用の技能」・「知識・理解」にかかわる設問については目標値を下回っている。</p> <p>学熱心に取り組む生徒が多い。しかし、小テストなどを実施すると正答率は低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着を図ることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「資料活用の技能」の力を身に付けさせるために、授業内で資料の読み取りや資料を選択・活用して説明する活動を行う。 各時間の最後に授業内容を自分の言葉でまとめる活動を行うことで、表現力を高めるとともに、知識の理解と定着を図る。 小テストを単元末ごとに行う。 フォローアップワークシートを活用し、個々の学力に応じた学習環境を用意し、学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に行われた東京都学力向上調査では「資料活用の技能」については、東京都の平均を4ポイント上回った。そのため、これまでの取組の成果が出たと見える。よって、今後も活動を継続していく。 「思考・判断・表現」と「知識・理解」については、いずれも東京都の平均を3ポイント近く下回った。まとめの活動を継続して行うことと、対話的な授業などを展開して、思考を深める活動を増やしていく。 単元末ごとの小テストは継続し、定着していない生徒に必要な手立てをしていく。 	
数学	<p>調第2学年では、全体では目標値を下回っていて、特に「技能」の観点が大きく目標値を下回っている。その一方で、「知識・理解」の観点は目標値を上回っている。</p> <p>調第1学年では、全体的に目標値を下回っている。特に「技能」の観点が、目標値を大きく下回っている。「知識・理解」の観点では目標値に達するまでもう少しだった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに、「技能」の定着が課題である。 第2学年では、「技能」の定着が不十分なため、技能を活用して解くことに課題がある。 第1学年では、学力の分布に二極化が見られ、理解や技能の定着が不十分な生徒に対する取組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに基礎的な計算の反復練習を増やしていく。基礎的な計算の導入は1問1答形式で行う。特に第1学年では、基礎的な計算の例題の数を増やし、問題演習時に自力で解くことができる生徒を増やす。 定期的に小テストを行うことで、生徒の定着度を確認する。定着が不十分な場合は、課題を与えるなど、さらなる定着を図る。 ICT教材を積極的に取り入れ、生徒の興味・関心を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年の区の学力調査で、全体的に目標値を上回ることができた。基本的な計算練習の課題への取組みが効果的であったと考えられるので継続していきたい。一方で、記述形式の問題に課題がある生徒が多いようなので、授業の振り返りを書かせるなどして、考えを記述する力を伸ばしていきたい。 第2学年は、都の学力調査で、特に思考・判断の観点が大きく平均を下回っているため、対話的な授業や教材研究を深め、思考を深めさせる工夫をしていく。また、ICT機器を効果的・継続的に活用することで、生徒の視覚的な理解を促し、興味・関心を高めていく。 	
理科	<p>調第3学年は、区の学力調査では全体的に目標値を下回っているが、昨年に比べ、目標値に近づいている。都の学力調査では、都の平均値を上回っており、特に思考・判断・表現と技能の観点では都平均を大きく上回っている。</p> <p>調第2学年では、全体的に目標値を下回っているが、知識・理解の観点以外では目標値に近い値となっている。</p> <p>学全学年とも実験を多く行っているため、技能は向上している。また、レポートに考察を記入することも徹底しているため、思考・判断・表現も向上している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年では、昨年からの指導により、一定の改善が見られる。今後の課題は知識の定着である。特に1、2年の内容を忘れていることが多い。 第2学年は実験に良く取り組み、技能も高いが、実験結果を知識として定着させたり、応用させたりすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年では、副教材等を利用し、1、2年の復習を行う。第3学年の内容についても、ワークシート等を使い、知識を定着させる。 第1、2学年は、実験の充実を継続しつつ、実験のまとめを丁寧に行い、実験結果を、知識や法則性につなげられるよう指導する。ワークシート等を使い、知識を定着させる。 実験を行いにくい単元(天体等)に関しては、ICTを効果的に利用して補っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は、全国学力調査でも全体的に目標値を下回っているが、思考・判断・表現の観点では、大きな改善が見られた。反面、技能の観点と、知識・理解の観点ではあまり改善が見られていない。今後は問題演習を増やして、知識・理解の観点の向上を図っていく。 第2学年は、都の学力調査でも全体的に都平均を下回っているがその差はわずかであり技能の観点では都平均を上回っていた。今後も引き続き実験を多く行い、技能の観点、思考・判断・表現の観点の向上を図っていく。 	
英語	<p>調「聞くこと、読むこと、書くこと」各領域について、目標値を上回ることができている。各領域ともにおおむね満足できる状況である。ただ、「書くこと」については上回っている数値が少ない。</p> <p>学集団としては、目標値を上回っているが、中には基礎が全く身につけていない生徒もいるので、スローラーナーに対する対処が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対話の内容を聞き取って資料をもとに答えること、対話の流れに合った英文を再生して書くこと、長文の内容を理解し感想や賛否及びその理由を書くことに課題がある。 基礎・基本の定着が遅れている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む力を伸ばすために、豊かなインプットを与え、教科書以外にも様々な英文を読みとる機会を十分に与えていく。読んだあとの活動として、感想や賛否およびその理由を書く課題を与える。 副教材を、毎回の授業で課題として出し、家庭学習に取り組みさせて基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査の結果を見ると、全体的な英語に関する数値は、都や区の平均の数値よりも上回っている。しかし「書くこと」に関しては、数値が下回っている。感想や理由を書かせる課題に重点を置きながら、併せて都立入試で出題される課題等にも取り組ませ、「書く力」を伸ばしていきたい。 基礎・基本の定着が遅れている生徒のために、単語などの基礎課題を取り組ませている。 	